

令和7年度天然記念物保護研究事業（春採湖ヒブナ生息実態調査）

釧路市立博物館

目的と概要

春採湖（国指定天然記念物「ヒブナ生息地」）に生息するヒブナの保護施策を講じる上で重要な知見を蓄積するための調査（1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査 2. ヒブナ・フナ産卵調査）を実施した。

1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査

1-1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態および毎年の産卵親魚数の動向を把握するため、実施した。

1-2. 調査方法

湖岸一円（全域）における目視カウント調査

6月18日に湖岸沿いをボートで春採湖を一周しながら、産卵のために湖岸沿いに寄ってきたヒブナ親魚の目視カウントをおこなった。

1-3. 結果と考察

6月18日に湖岸全域の目視カウント調査を実施したがヒブナ産卵親魚は確認できなかった。（図1，表1）。マツモやリュウノヒゲモなどの水草の分布面積が年々広がってきているため、ヒブナ産卵魚が目視確認しにくくなっている可能性が考えられる。

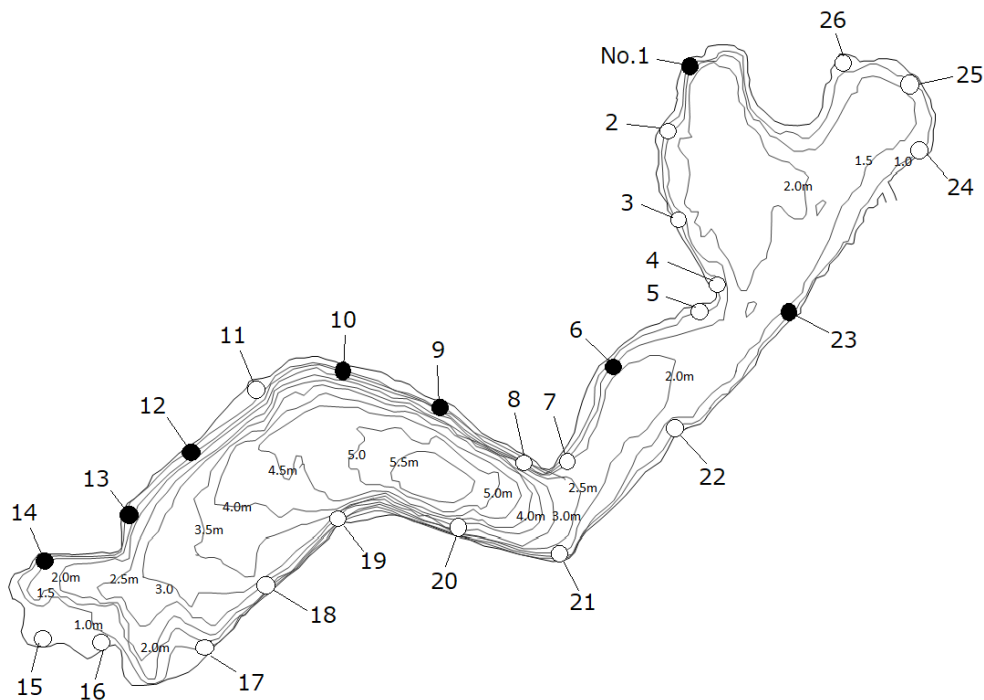


図 1. 2025 年 6 月 18 日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の地点（No. 1～26）。黒丸は産卵が確認された地点。

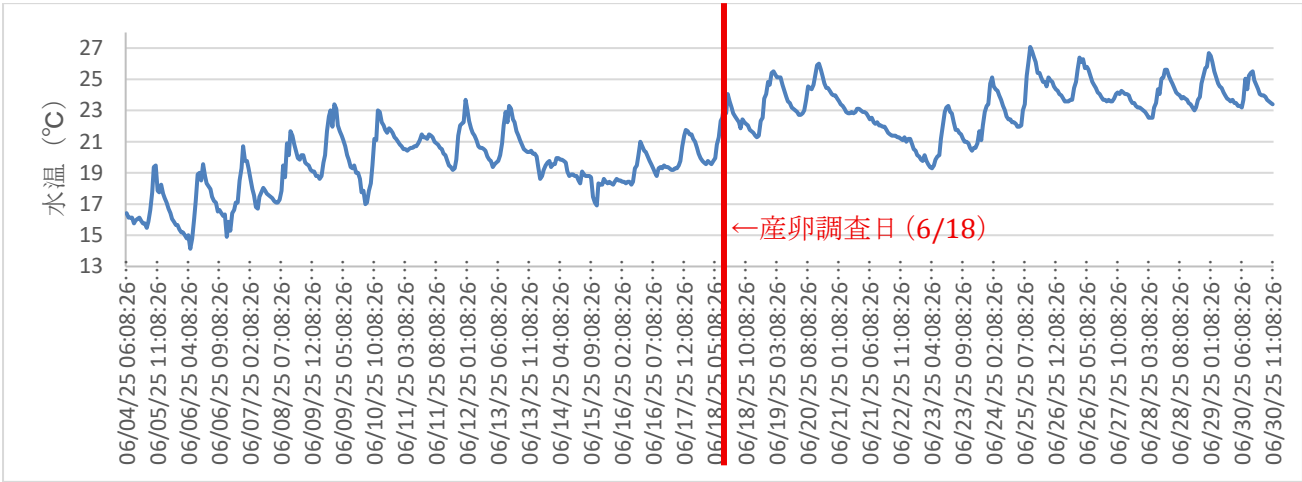


図 2. 産卵期間中（6 月 4 日～30 日）の春採湖内の水温変化。

表 1. 平成 26 年～令和 7 年のヒブナ産卵親魚確認尾数（捕獲尾数、目視確認尾数）

調査年	目視確認尾数 （湖岸一円における目 視カウント調査結果）	のべ目視確認尾数 （定区、湖岸一円調査合計）	捕獲尾数 （定区、湖岸一円調査合計）
2014（平成 26）年	15	74	11
2015（平成 27）年	16	72	19
2016（平成 28）年	20	19	13
2017（平成 29）年	0	3	1
2018（平成 30）年	2	15	4
2019（令和元）年	3	実施せず	実施せず
2020（令和 2）年	1	実施せず	実施せず
2021（令和 3）年	2	実施せず	実施せず
2022（令和 4）年	0	実施せず	実施せず
2023（令和 5）年	1	実施せず	実施せず
2024（令和 6）年	1	実施せず	実施せず
2025（令和 7）年	0	実施せず	実施せず

※目視確認尾数は産卵盛期の 1 日に湖岸一円において目視カウントしたヒブナ尾数
（2021 年調査については 2 日間に分けて実施した）

表 2.（参考）1984 年～2010 年の春採湖ヒブナ生息調査（地曳網調査）結果

地曳網調査については 1984 年から 2001 年までは毎年、2001 年から 2010 年までは 3 年に一度実施してきたが 2010 年で一度休止し、調査方法の再検討を行い、地曳網調査を 2014 年からは湖岸一周の目視調

査と捕獲調査を行っている（表１）。

調査年	ヒブナ捕獲尾数	フナ捕獲尾数
1984（昭和 59）年	237	36,417
1985（昭和 60）年	17	1,299
1986（昭和 61）年	112	5,271
1987（昭和 62）年	43	1,811
1988（昭和 63）年	3	373
1989（平成元）年	4	511
1990（平成 2）年	3	263
1991（平成 3）年	3	778
1992（平成 4）年	3	152
1993（平成 5）年	3	1,098
1994（平成 6）年	32	5,431
1995（平成 7）年	6	1,718
1996（平成 8）年	4	1,102
1997（平成 9）年	12	2,129
1998（平成 10）年	4	1,743
1999（平成 11）年	13	4,973
2000（平成 12）年	8	3,092
2001（平成 13）年	4	9,487
2004（平成 16）年	0	921
2007（平成 19）年	0	35
2010（平成 22）年	0	6

2. 春採湖のヒブナ・フナ産卵調査の結果について

2-1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態を明らかにし、文化財の保護を図るとともに、水質浄化の効果指標として、ヒブナ・フナの産卵状況を調査した。

2-2. 期日

令和 7 年 6 月 18 日

2-3. 場所

湖岸一帯において調査場所地点を設定し、産卵状況を調査した（図 1）。

2-4. 結果と考察

（１）6 月 18 日の調査において、春採湖岸の北部の 3 地点と南部の 5 地点合計 8 地点で産卵（卵付着物：マツモ、リュウノヒゲモ、フトイ、ヨシ）を確認した。

(2) ヒブナ・フナの産卵巣であるリュウノヒゲモは 2010 年から 2016 年にかけて一時確認できない時期が続いたが 2017 年以降本年調査も含め 9 年連続して確認し、過去 3 年は特に顕著な分布面積の拡大がみられる (図 1、表 3)。

(3) ヒブナ・フナの重要な産卵場であるマツモについては、湖内分布面積が 2006 年には目視では確認できないほどに減少したものの、2008 年以降徐々に増加し、2023 年現在では 1986 年当時より分布が拡大している (図 3)。マツモやリュウノヒゲモなどの水草が湖岸沿いに分布拡大したことにより、ヒブナ産卵魚がいたとしても水草の影に隠れてしまい、目視確認がしにくい状況になっている可能性が考えられる。

表 3. 2025 年 6 月 18 日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の結果。午前 10 時の気温 22.8℃で、天候は晴。僅か：卵数 1～4 個/cm²、少量：卵数 5～9 個/cm²、多量：卵数 10 個以上/cm²。

調査地点	時刻	水温	水草等の種類	産卵状況	水草の種類と生育状況
No.1	12:40	24.0	マツモ断片	少量	マツモ群落、ヨシ
No.2	12:50	25.0	マツモ断片、枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.3	12:55	25.6	マツモ断片、枯ヨシの茎	確認できず	マツモ群落、ヨシ
No.4	13:02	24.9	マツモ(多)	確認できず	マツモ群落、ヨシ
No.5	13:07	23.2	ヤラメスゲの茎、マツモ断片	確認できず	ヤラメスゲ、ヨシ
No.6	13:17	22.5	マツモ断片、リュウノヒゲモ	僅か	ヨシ、リュウノヒゲモ
No.7	13:25	23.0	スイレンの葉	確認できず	スイレン、ヨシ
No.8	13:33	25.0	リュウノヒゲモ(多)	確認できず	リュウノヒゲモ群落、ヨシ
No.9	13:42	26.0	リュウノヒゲモ(多)	多量	リュウノヒゲモ群落、ヨシ
No.10	13:50	25.5	マツモ断片、リュウノヒゲモ断片	僅か	ヤラメスゲ
No.11	14:00	23.1	リュウノヒゲモ(多)	確認できず	フトイ、ヨシ
No.12	14:05	22.6	リュウノヒゲモ	僅か	ヨシ
No.13	14:10	24.8	リュウノヒゲモ(多)	少量	リュウノヒゲモ群落、フトイ
No.14	14:18	23.5	マツモ断片	僅か	ヨシ
No.15	14:25	22.2	ヤラメスゲの根	確認できず	ヨシ、フトイ
No.16	14:30	23.0	ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.17	14:35	22.0	リュウノヒゲモ断片、枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.18	14:42	22.6	エゾノミズタデの葉	確認できず	エゾノミズタデ群落
No.19	14:48	21.8	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.20	14:58	23.8	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.21	15:03	24.2	マツモ断片、枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No.22	15:11	24.4	マツモ断片	確認できず	ヨシ
No.23	15:20	24.0	マツモ断片、枯ヨシの茎	僅か	ヨシ、フトイ
No.24	15:30	26.0	マツモ断片	確認できず	ヨシ
No.25	15:36	25.8	マツモ断片	確認できず	ヨシ
No.26	15:42	26.1	ヒシの葉、ミクリの根	確認できず	ヨシ



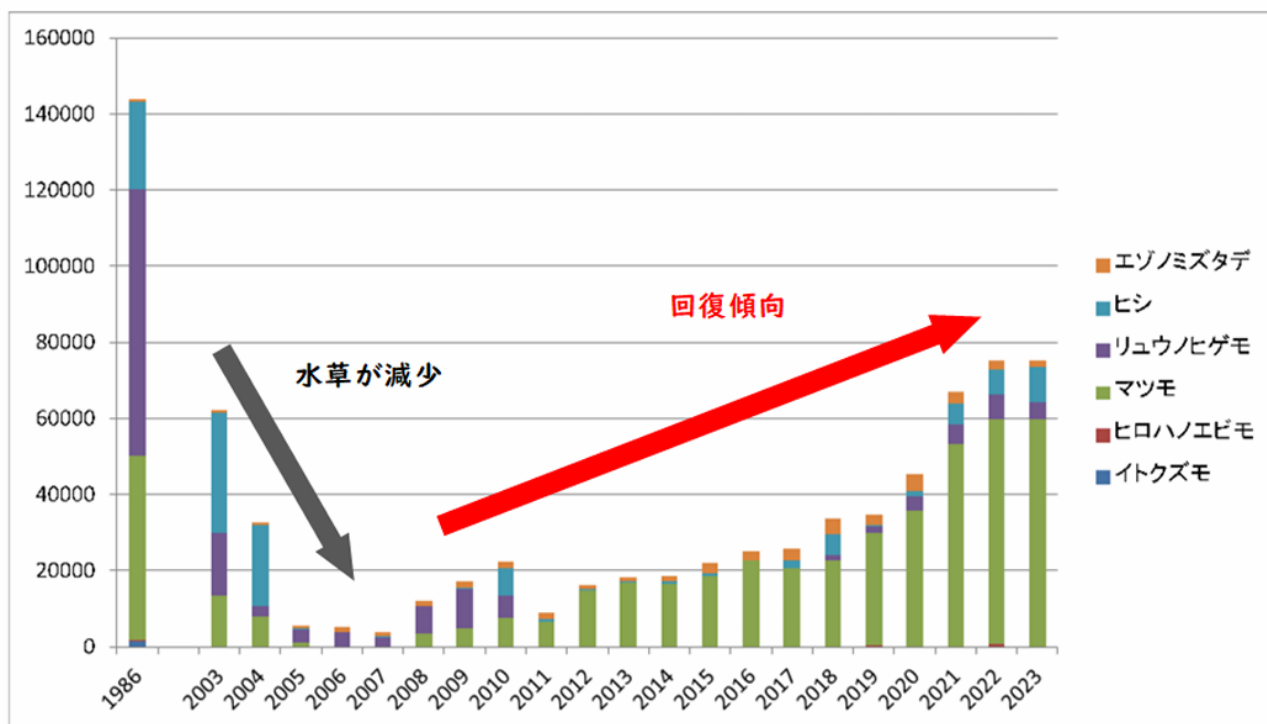
写真 1. 湖岸付近の浅瀬に繁茂するリュウノヒゲモ（図 1. No13）



写真 2. 湖内でヒシが目立って来ている。



写真3. エゾノミズタデへのヒブナ・フナ卵の付着状況調査（場所： 図1のNo18）



（参考） 図3. 水生植物の分布面積の推移 『春採湖レポート 2023』より